

## かけだ詩⑦

そだちと臨床研究会

かわばた たかし  
川畑 隆

### 定義

知能とは知能テストで測られたものですって

これ冗談じゃないんですね 人によつては  
いちばん正確な知能の定義じゃないかと言つてくるくらい

性格とは性格テストで測られたものなんて言い回しは

ほとんど聞いたことがあります ということは  
性格とはこれだと言えるってことかな ホントかな？

人間の言動とは

自己像(イメージ)を脚本にした役割演技(ロールプレイ)  
これ私が言ったんです…と思ひ込んでいるんですが

自分のことをふりかえったときに 言い得てると思ひませんか？

それじゃあ 人間の感情とは

血圧計に表示された数値が高かったとき  
深呼吸して測り直そうとする状況でまな板に載るようなもの  
…なんて自己中心的なものはほはほだしい

### 決心

中学生のK子は母と二人で暮らしてきた

その母に恋人ができて一緒に暮らすようになった

K子は恋人に馴染めなかった

K子の外泊は増え 学校生活でも荒れた

不良行為で警察に捕まったりもして

K子への心配は深まった

派手な行動とは裏腹に 見せる顔は暗く重たかった

児童福祉施設に入所して自分を立て直す選択肢があった

K子と母が並んで座っている

母「あの人が嫌なんか 一緒に仲よう暮らされへんか」

K子「…」

母「ようしてくれてるのになあ 子どもやなあ」

K子「…」

母「そうか このままやったら  
施設に入るのも仕方ないんちゃうの」

K子「…」

母は私ではなく恋人のほうをとるのだ  
K子は恐かったけれどそう聴いたと思つた  
恋人への優しい顔と私への険しい顔  
それが辛かったけれど

優しい顔をしている母も護りたかった

母の子どもとして

### 署名

：お父さんとU子さんとで自由に話し合つて

家族で何かしているところの絵を描いてください

U子「エーッ 描けるわけない」

父は腕組みをして黙ったまま

U子は父をチラチラ見ながら下を向いて手遊びしている

父「何を描こうか…」

U子「何もないもん」

父「何もないといつても…」

またずつと無言

父「海水浴に行ったなあ」

U子「貝を焼いて食べたとき？」

それをきつかけにどうにか父の手が動き始めた

父「あんたも描かないと…」

U子がニコツと笑い 父の絵の内容にそつて描き始めた

不良グループのリーダーのU子

父は神経症気味で身体も壊していた

U子のことにはノータッチで

母が一人でいろんなことを切り盛りしていた  
母の欠席で父子だけになった面接室

U子「できた！」

父「なかなか描けなくてすみません」

置いたクレヨンがU子がもう一度手にした

そして 画用紙の隅に書いたのだ

父の姓名と自分のそれとを並べて：

とてもぎこちない父とU子の描画場面

父は絵が描けず困惑し

その父をU子はとても気遣つた

学校ではボスのU子が脇役になつて

父を支え共同作品を完成させた

父のもとで描くU子は心がわずかに踊るようで

何だか少し誇らしかった

父の子どもとして

### ある大学生への挑戦

あなたは喋らないつて聴いてますけど

そうなんですか

そうですか

うなずいてくれたからわかりやすいです  
もしかして  
私が喋らなくてもいいよって言うのと  
喋ってくれてもいいけどというか  
そりゃ喋ってくれたら嬉しいけどなんて  
私が思っていると聴こえてしまいますか  
そうですか  
それじゃあ  
喋ったらダメ  
喋りたくなくても口を押えて：  
っていうことにしましょうか  
そうですか  
よし それじゃあ  
それを私と会うときのルールにしましょう  
で どうするかというと：  
あなたはきつとこう思ってるんじゃないかと  
私が一生懸命考えて想像することを  
私が勝手に喋ることにしましょうか  
それで  
けっこう当たってたらうなずく  
当たってなかったら首を横に振る  
どっちでもなかったり よくわからなかったら  
首をかしげるなんてどうでしょう  
首を動かすのがしんどかったら  
○×△のカードを用意してもいいですけどね  
そうですか  
じゃあ 首を振って教えてください  
もしかして  
喋ったらダメだっていうのはラクだけど

ちよと奇妙だななんて気がしますかね  
そうですか  
いま首を少しかしげてくれましたよね  
オツケー  
喋らないってこと  
いまのあなたに とても  
大事なことなんじゃないかと思っただけだから：  
ごめんなさいね  
まだあなたのことぜんぜん知らないのに：  
そうですか  
ちよつとピンとこないかな  
そうですか

### 穴太寺 (あなおじ)

大学から徒歩圏内の穴太寺  
古くてとても魅力的な寺  
秋風が少し冷たく感じるゼミの時間  
学生たちを連れて散歩にかけた  
本堂に入るにはお金が要る  
五百円は強要できないし行動は自由にした  
私は後ろを振り向かずに入場したが  
結局 後ろに続くものはいなかった

寺の売りのひとつは横たわった大仏さん  
自分の身体の具合の悪いところと  
大仏さんの同じところを撫でると  
よくなるという言い習わし

その頃すこし胃の調子が悪かったので  
大仏さんのお腹をさすって外に出た  
学生たちはやっと出てきたかという感じで  
退屈感を漂わせている

独り相撲のあとのぼつの悪さも加勢して  
大仏さんの話を学生たちに披露する

「禿げとるんは治らんやろうけど、  
大仏さんの頭を撫でてきたよ！」

「気持ちにはわからんではないけどな

この期に及んでまだ仏だのみかいな」

「先生 はやくもご利益あつたんちやう？  
三本ほど増えとるがな」

期待したのはそんなリアクションだった  
でも私から語りかけられた目の前の学生  
返答に困りながら眉間に皺をよせ憐れむように  
「先生 そんなに自分を卑下したらダメです」

これがギャグならその方向での理解と対応もあった  
でも そんなものではなかった  
周りの学生たちからの手助けもなく

私は「卑下」に言葉を封じられてしまった

冗談で返してくれる見込みのあったその学生  
結局は私の不徳の致すところ  
学生の眉間の皺は苦悩の象徴として今も浮かぶ  
私にとって穴太寺はそんな寺だ（どんな寺やねん！）

穴太寺：京都府亀岡市にある天台宗の寺院。

#### 四度（よたび）たじろぐ

あのなあ

お外から帰ってきて手を洗う

それから

オシッコいって手を洗う

やったら

二回手を洗わなあかんやろ

でもな

お外から帰ってきて

すぐにオシッコいったらな

手洗うの一回ですむやろ

そういうことや

飲食物の記憶の底 (六十五歳以上限定版)

エノケン(榎本健一)の歌だったっけ「♪【渡辺のジュースの素】ですもう一杯♪」。【ソーダの素】も何色かあった。先代の林家三平の「お餅も入ってベタベタと甘くてどうもすいません」は【おしるこの素】だったかな。【カルピス】は昔から今のままで、似たような【森永コーラス】や【ミルトン】もあった。【フルーツカルピス】は高級品でそんなにいっぱい飲んだ覚えはない。【ヤクルト】はもちろんなあつたし、【フルーツ牛乳】をはじめ飲んだときには世の中にこんなうまいもんが：と子どもながらに思った。一升瓶に入った飲むヨーグルトやオレンジジュースの濃縮液も出回っていて、お得だと言って買ってもらった。【マーブルチョコレート】や【パラソルチョコレート】、それにチューブに入った吸って食べる柔らかいチョコもあつた。【ココアシガレット】という名の砂糖でできたタバコ、火を点けたら燃えずに焦げた。このあいだ駄菓子屋で見つけた。【エースコイン】は古銭をデザインしたビスケットで、歯の間に詰まった。【ABCビスケット】には青のりが振りかけてあって、【金魚あられ】も甘くておいしかった。いちごジャムやマーガリンが単純に挟まれたフラットな三角のパンも懐かしい。冷たいものでは【アイス饅頭】や【パイン】【爆弾キヤンデイ】：。夏になると魚屋さんが魚と一緒にアイスキャンデーを自転車で売りに来ていた。買ってもらって舐めたら魚の鱗が付いていた。小さい頃は鹿児島にいたので【サツマイモ】のふかしたやつはしょっちゅう。【サトウキビ】はとつても甘い繊維を噛んでカスを吐き捨てた。冷たい【トマト】や丸ごと

一本の【モロキュウ】も今から思えばご馳走。鹿児島限定だが【兵六餅】【ボンタンあめ】【かるかん】も貰い物や父のパチンコの景品でよく家にあつたが、子どもの口にはあまり合わなかった。【アク巻】や【ソマンコ(そばがき)】もたまにあつて、こういうのは好きだった。ご飯のおかずで浮かんでくるのは【アジ】の焼いたので、ホカホカに醬油をかけてよく食べた。他には【タラ】の干物。この干物と【木綿豆腐】の固い冷や奴は交代で、夏休みの昼ご飯に毎日と言つていいほど続いた。母がさばいた生の【サバ】の刺身にはたまに小骨があつたこともあつてちよつと敬遠。【ハラガワ(カツオの干物)】は強烈な匂いでクセがあり酔をかけて食べる。苦手だった。【カツオ節】はパック入りはまだなくて削つてよく食べた。その他にどんなおかずを食べていたかあまり思い出せない。丸美屋の【のりたま】は昔からあつたし【すき焼きふりかけ】もあつたが、ふりかけはあんまり好きじゃなかった。【卵かけご飯】はよく食べたが、今みたいに卵じやぶじやぶじやなくて卵の色が着く程度でご飯が多かつた。【即席ラーメン】は「マルダイ」の棒ラーメンばかりだつたが、新発売の「サンポー」(?)の袋入りラーメンは抜群にうまかつた。鹿児島での外食の思い出は多くない。山形屋裏の「味の一丁目」の【ラーメン】は大好物。大将が亡くなってから味が変わったのを覚えてる。夏の暑い日の「扇屋」の【きんつば】と冷たい麦茶。たまらなかつた。【シロクマ】というかき氷は幼時の私には量が多すぎた。

コカコーラをはじめ飲んだのは少し長じて小3の頃だつた。瓶入りのシユワシユワに、「これがアメリカの味か！」と思つたのを覚えている。

⑦了 二〇二一年三月十五日